

## ● 学会発表の内容

### IMSIとICSIでのART成績の前方視的検討

医療法人社団 徐クリニックARTセンター

藤澤 弘子 許 尚丹 伊藤 真理 渋谷 智子 清須 知栄子 徐 東舜

#### ■ 【目的】

近年、高倍率の微分干渉(DIC)下において精子選別を行うIMSI (intracytoplasmic morphologically selected sperm injection)では、従来のICSIと比較して成績が向上するとの報告がある。そこで、IMSIとICSIの成績を前方視的に比較検討した。

#### ■ 【方法】

2009年7月~2010年3月に当院で顕微授精となった24症例285個の卵子を対象に、同一症例において卵子をランダムに2つの群に分け、それぞれIMSIとICSIを行った。IMSI群は400倍で形態・運動性を評価した後、630×1.5倍(微分干渉)で形態評価を行い選別した正常精子のみを卵子内へ注入した。ICSI群は400倍で形態・運動性を総合評価して選別した精子を卵子内へ注入した。平均年齢33.8±3.3歳、平均既往採卵回数1.4±1.7回、平均採卵個数は14.0±7.6個であった。

#### ■ 【結果】

IMSIとICSIの成績は受精率、Day3良好胚率で、有意な差は認められなかった。胚盤胞到達率、良好胚盤胞率、生産率(48.4%vs31.6% ;  $P < 0.05$ 、19.4%vs6.3% ;  $P < 0.01$ 、50%vs10% ;  $P < 0.05$ ) は、IMSI群で有意に上昇した。流産率(16.7%vs75% ;  $P < 0.05$ ) はIMSI群で有意に減少した。

#### ■ 【考察】

ICSI群に比べIMSI群で、精子の形態をより詳細に評価し選別することで、胚盤胞形成率、良好胚盤胞率、生産率は有意に上昇し、流産率は有意に減少した。IMSIは有用である可能性が示唆された。